様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　　2025 年 1 月 17 日

１．職名・氏名　教授　新宮　晋

２．学位　　学位　修士　、専門分野　経済学　、授与機関　京都大学　、授与年月 1986 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 マクロ経済学III（2単位）　　2年生以上
②　内容・ねらい マクロ経済学の基礎理論の延長にある様々な個別理論とともに、ケインズ派以外のマクロモデルや動学モデルにも言及。マクロ経済学の応用面への足がかりを提示することをねらいとしている。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学習時間が成果に結びつくことを学生に実感させる。そのため、経済学的な考え方を一般的なモデルで説明するとともに、テキストを指定しそれに沿うことで学習の便宜を図る。また練習問題を予習課題として講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にするとともに、理解の助けになるよう、事後に練習問題の質問会を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 経済学特講C・経営学特講C（経済学の倫理的基盤）（2単位）　　2年生以上
②　内容・ねらい 理論的な分析モデルとしての主流派経済学が前提にしている価値中立性に対して、他の様々な経済学説や経済学の隣接領域から寄せられる疑問や批判にどう応えるかを、主流派の方法論「方法論的個人主義」の検討を通して吟味することで、理論の有効性と限界について見通しを立てることをねらいとしている。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 近代社会の前提である「個人」や「個人主義」を、中世から近代に至る西欧の社会構成体の変化の中に位置づけるとともに、社会思想の中で個人がどのように扱われてきたかを重ね合わせる。さらに大衆社会の到来が困難にする「個人主義」に対して、理念的・抽象的な個人主義モデルの経済学がどれほど有効なのか，というように、理念モデルの歴史として個人主義を捉える。大きな枠組みは、高校までに学んだ世界史や公民諸科目の延長で理解できるよう工夫した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎ゼミ　（2単位）　　2年生
②　内容・ねらい シラバスに基づきつつ、毎回特定の論点を提示し議論させる。受講生を3人程度の複数グループに分けて討論させ、率直な意見を引き出すとともに、そうした意見の論理的な根拠を示すよう求めることで、討論が上滑りにならないよう誘導した。内容は、経済学の周辺領域と重なる部分に着目することで、社会的な課題についての考え方が多様であると同時に経済学が孤立した領域でないことを実感させることをめざした。論点の多くは、具体的な経済学と政治哲学の接点になるもので、経済学の倫理的諸前提が社会科学の中でどういう立ち位置になるのかを理解させるよう指導した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回の討論テーマの提示に工夫をした。多くは政治哲学の分野で有名なものであるが、それらの一般性を弱め、より具体的な事例から討論にはいりやすいようにするとともに、いくつ

かは自前のテーマを提示するなどして、理解の深まりを目指した。関連するビデオや映画を題材に、理解を深めることを目指した。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
外書講読I（2単位）　2年生（両学科）

② 内容・ねらい
主に政治哲学の英文を読む。標準的な経済学が前提にしている道徳的基盤に対する疑問が率直に提示されているものである。自分が担当する特講の授業との連携を意識しつつ、経済学を支える道徳哲学についての理解を、英語文献を読むことで深めることを狙う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
通常外書講読では、英文翻訳と中身についての理解を並行して行うことが多いが、本講義で事前にテキストの内容に関わる論点の理解を、一定の時間をかけて日本語でおこなう。その際、内容に立ち入った議論になれることをめざし、討論の機会も設けている。特にすでに学修した経済理論についての異なる切り口からの説明を丁寧に行い、テキストの内容との連携を図った。これらによって英文の理解はかなり容易になるようで、普段よりも短時間で大量の英文を読ませることができた。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅰ　（4単位）　3年生

② 内容・ねらい
前期は、前田裕之『経済学の壁－教科書の「前提」を問う』をテキストに、輪読形式で丁寧に読む。学説史的な内容を踏まえ、経済学の主流派から異端派に至る総括的な内容のテキストなので、これまでの学修の振り返りと経済学における基本的論点の整理を主眼とした。
後期は学内ゼミナールコンテストに向けてグループ研究を行う。受講生の問題意識を問いながら最終的に「最低賃金」と「内部留保」をめぐる論点に絞ってそれぞれまとめさせた。広範な論点を含むため、本学の他の教員にも助力を得ながらまとめさせることになった。

③ 講義義・演習・実験・実習運営上の工夫
これまで恒例となってきたグループ研究であるが、今回は各自が持ち分を分担することでコミットを明確にするよう促した。これにより、個々の論点についてのメンバーの理解は深まったが、逆に全体を見通すという点からのまとめ方がうまくいかず、課題となった。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
特別企画講座A「ケーススタディデ学ぶ労働組合」（2単位）　2年生以上

② 内容・ねらい
例年行っている連合による寄付講座。採り上げるテーマは、雇用劣化（失業・非正規雇用の拡大・低賃金・労働条件の悪化）の現状と課題、従業員の権利と義務の実際、そこで果たすべき労働組合の役割などで、制度面・法制面等多面的に展開。多様な講師陣によるオムニバス講義で、キャリア教育とは異なる実社会への誘いをねらいとしている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
現場の具体的事例から説き起こす「ケーススタディ」として講義内容を構成し直し、抽象論のレベルで重複することがないよう、今回も寄付元と綿密に打ち合わせて構成を考えた。講師陣も地元の現場関係者を多くし、授業時間90分を講義60分と質疑応答の30分に分け、今年は例年と異なり、毎回の講義についての疑問と感想を出席者に書かせ、その場でその内容を述べる形で質問させることにした。

(2)その他の教育活動

・経済学特講C・経営学特講C「行政のリアル」授業サポート
・原子力安全研究協会招聘授業「日本の原子力発電所廃止措置の現状と期待について」コーディネート
・近畿大学通信教育「経済原論」1「マクロ経済学」1集中講義（2024/9/28, 10/5, 10,12：大原学園福井校）

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①　論文
②　著書
③　学会報告等
④　その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など 　地域公共政策学会専務理事（事務局）
学会・分科会の開催運営 　地域公共政策学会研究大会（2025年3月開催予定）幹事会
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

５．地域・社会貢献

(1)学外団体
①　国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井地方最低賃金審議会委員（2008年～2015年、2017年～2024年4月30日） 福井地方最低賃金審議会会長（2017年～2024年4月30日）
②　地方公共団体等の調査受託等
③　公益性の強い）NPO･NGO法人への参加
④　（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤　大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①　公開講座・オープンカレッジの開講 　・「経済学・経営学はおもしろい！」（4人共同開催）
③　その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

６．大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
FD部会委員（2023年4月～） 学部教育学習支援チーム(2023年4月～) 1年生相談担当教員
(3)学内行事への参加
入試説明会
(4)その他、自発的活動など